

## 春期の病害対策について

3月下旬～4月中旬にかけて、曇雨天の日が多く、灰色かび病等の病害が多く発生しています。また、4月23日発表の1か月予報によれば平均気温は低い確率50%で、降水量は平年並と予想されています。今後の病害の発生に注意し、速やかな防除に努めましょう。

## 1 発生の状況

向こう1か月間において平年より多く発生すると予想される主な病害は以下のとおりです。

作物名	病害虫名	発生面積（平年比）	発生量（平年比）
冬春トマト	灰色かび病	多い	多い
イチゴ	灰色かび病	多い	多い
白ねぎ	べと病	平年並	平年並
ナシ	黒星病	平年並	やや多い

## 2 防除の考え方

## 1) 施設野菜

- (1) こまめな谷換気、適正な草姿の維持、暖房機の稼働や送風、攪拌扇の作動等により通風の改善を図るとともに、初期防除を徹底する。
- (2) 発病果や発病葉は伝染源となるので、見つけ次第ハウス外に持ち出し、適切に処分する。
- (3) 晴天日の日中に防除することが望ましいが、曇雨天時の防除については液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用すると過湿防止に有効である。

## 2) 露地野菜

- (1) 被害葉等は伝染源となるので圃場の近くに放置しない。
- (2) 薬剤防除は予防散布や初期散布に重点を置く。ただし、すでに発病が認められている圃場では、治療効果の高い薬剤を散布した後に予防効果のある薬剤を散布する。
- (3) ネギべと病は、一度発生すると急激に進展する傾向があるため、未発生圃場においても注意が必要である。

## 3) ナシ（黒星病）

- (1) 本年は黒星病に感受性の高い開花期以降に低温・多雨傾向であったため、既に潜在感染している可能性がある。
- (2) 薬剤防除は予防散布や初期散布に重点を置く。すでに発病が認められている圃場では、治療効果の高い薬剤を散布した後に予防効果のある薬剤を散布する。
- (3) 天候に応じた防除につとめるとともに、薬剤のかけムラがないよう、散布方法にも注意する。

## 3 留意点

- 1) 防除薬剤は、作物によって使用できる薬剤が異なるので、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し使用する。
- 2) 薬剤は、農業研究部病害虫チームホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/oita/>）内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。

担当：農業研究部病害虫チーム  
TEL：（0978）－37－1893